育児と個人時間を両立するスペースデザイン

Space Design for Mothers who Want to Balance Childcare and Personal Time

髙橋 凜　TAKAHASHI Rin　2018年入学 | 工業設計学科　Department of Industrial Design

分類:卒研
作品／論文:　作品
制作年度:　2021年度
課題概要:　空間

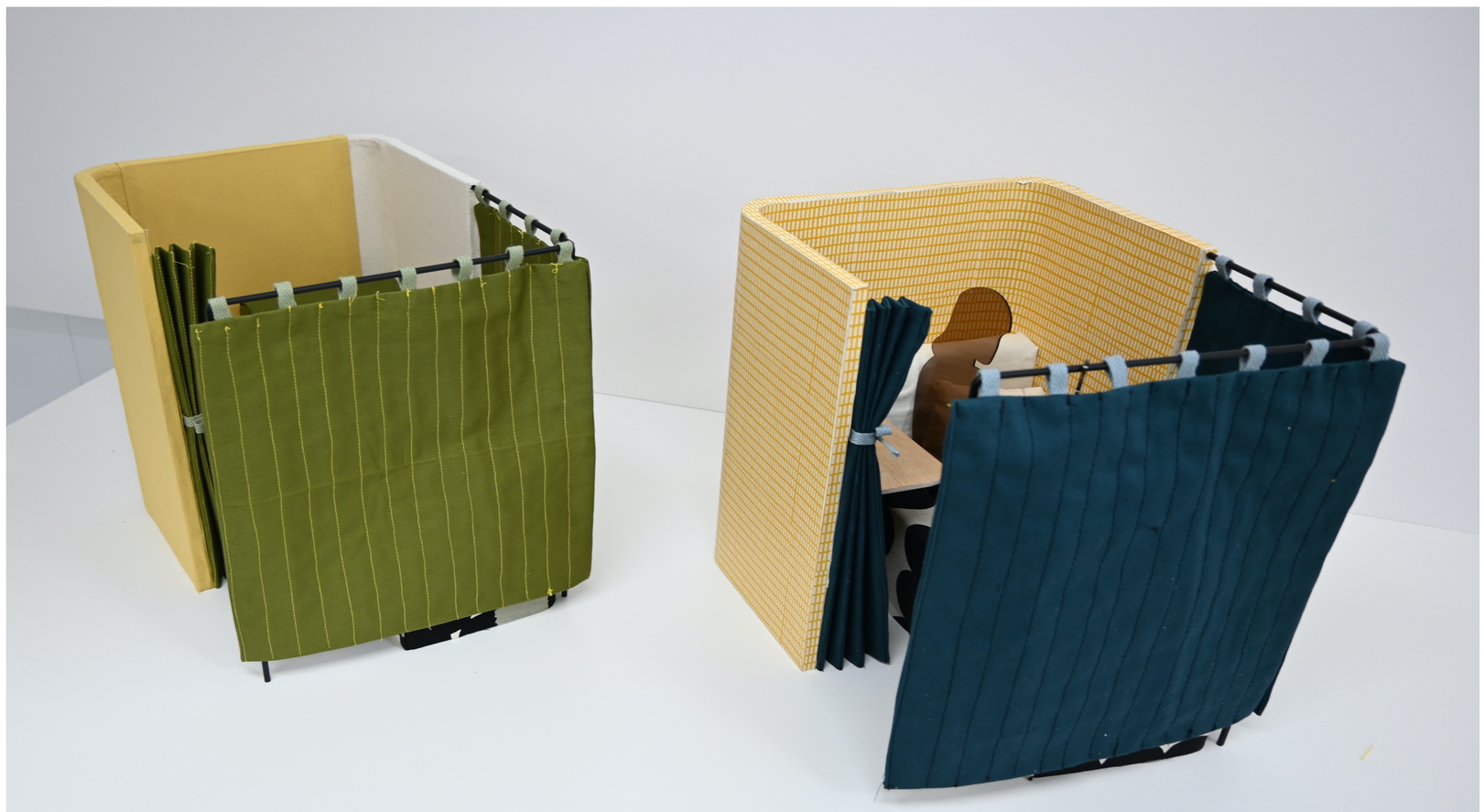

図1　母のためのシェルター　KOYACCO 外装

図2　間接照明になるドレッサー

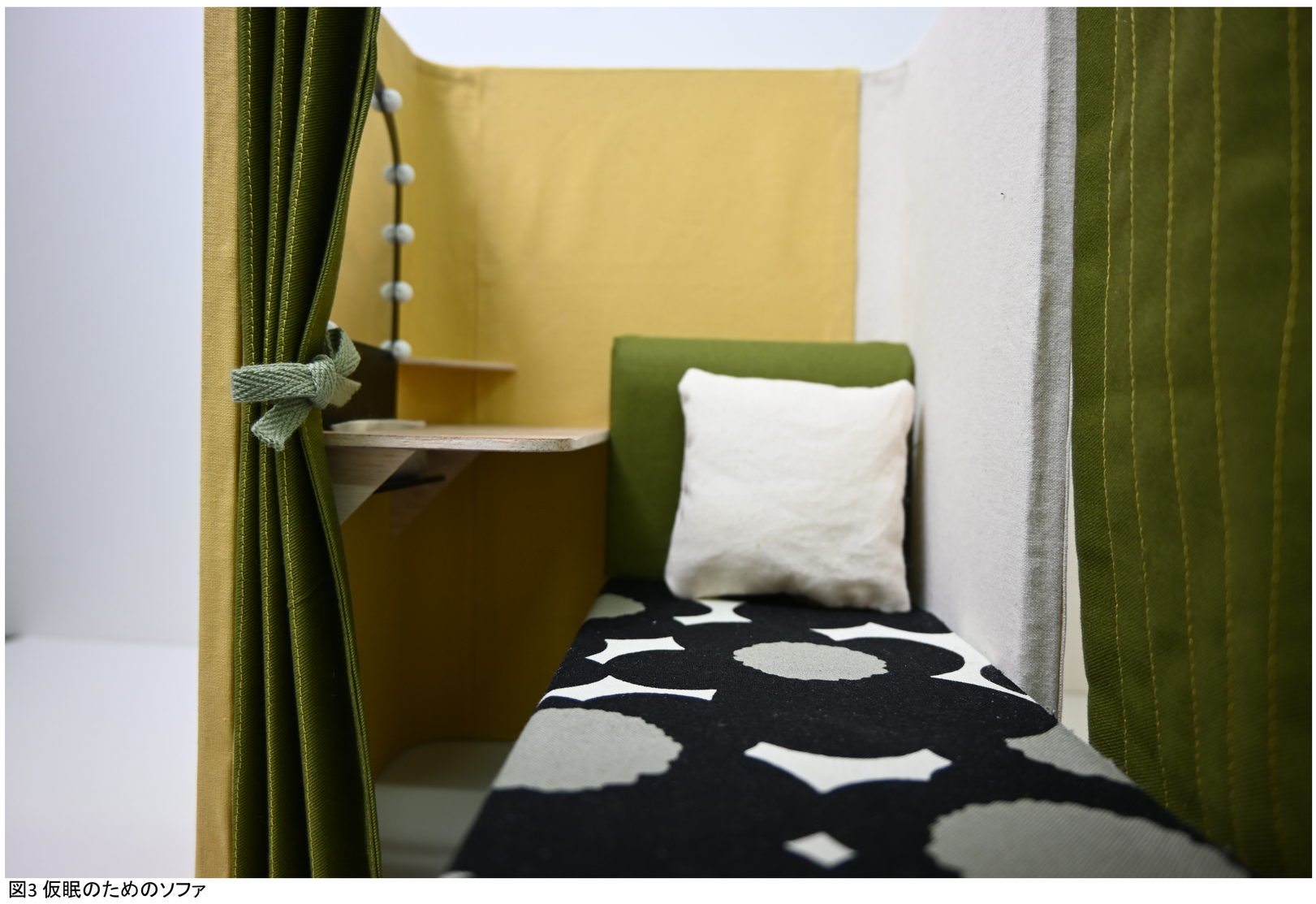

図3 仮眠のためのソファ

【背景と目的】

近年我が国では育児の孤立が大きな社会問題となっている。特に未就園児においては、子育ての中心を担う母親が一日中一人で乳幼児と向き合うことが多く、育児に対するストレスから免れることは非常に困難である。本研究ではインクルーシブデザインの視点から、未就園児の母親を対象に社会的孤立や精神的孤独に着目し、育児のストレスや課題を抽出する。そのうえで、母親自身の育児孤立を軽減するスペースデザインを行うことを目的とした。

【抽出した課題】

文献調査では以下の課題を抽出した。

・日本では子どもに向けた育児サービスが多く、母親側のウェルビーイングはなかなか注目されていないこと

・幼児と母親の関わり合いまで考慮したサポートが必要であること

さらに、フィールド調査では以下の課題を抽出した。

・親子が常に一緒にいながら遊ぶ空間と、親が子供を預けて施設外に出るという２つの選択肢のみしか無いこと

・母自身のウェルビーイングのために、リラックスして回復する時間が必要であること

・上記の際は一人になりたい一方で、子供への心配や罪悪感で離れたくないという矛盾したニーズがあること

【コンセプトとアイデア展開】

「一人になりたいが離れたくない」をコンセプトとし、「福岡市立中央児童会館あいくる」の乳幼児フロアを対象に、「母親が自分の時間をリラックスして過ごせるウェルビーイングのための空間デザイン」を提案する。さらに、調査を踏まえ、空間でできる主要な体験を「仮眠」「自身の頭の中の整理」「外出のための準備」の3つに定めた。また、主に仕事以外の目的で一時預かりを利用する母親が、その前後に育児時間との切替えとして10分から1時間ほどを過ごす場として提案することとした。

【提案】

個人のためのシェルターを複数配置する母親スペースのデザインを提案する。このシェルター内にはモニターを設け、母親は気になった時のみ、一時預かり中の子どもを確認できる。モニターから流れる映像は、一時預かり室を頭上から映したものである。また、子どもの緊急時には施設利用予約アプリを通して母親に通知することで、すぐに駆け付けられるようにした。さらに、母親が抵抗なく戻れるように、上体を少し起こした姿勢で仮眠が取れるベッドを設置した。加えて、書き物をする机と身支度用のドレッサーを用意し、居場所感のある空間をデザインした。

以下フッダ